Plan news

プラン・ニュース［2015 Summer］No.99

国際ガールズ・デーまでのSNSアクション

「#Girl4President」が始まります

インタビュー

Because I am a Girl エンジェルに就任

森星さん活動地域を訪れて

新しい
Girl's Projectが
始まります

ベトナム

コミュニティが
プランから卒業するまで



子どもと築く、未来のしくみ

Plan
プラン・ジャパン

発行：公益財団法人プラン・ジャパン

キーパーソンに聞く

森星さん

●モデル

笑顔は言葉の壁をも超えると強く実感しました。

モデルとして、その明るい笑顔で多くの人を元気づけている森星さん。初めての途上国視察でも、笑顔を武器に、モン族の子どもたちと心温まる交流ができたそうです。







（右）森さん自身が持参したシャボン玉で、子どもたちと交流しました。ベトナムではシャボン玉は知られていなくて、子どもはもちろん大人も夢中に追いかけていました（左上）「女の子クラブ」の子たちと綱引きを楽しんで。運動は女の子のリーダーシップも育みます（左下）民族衣装が可愛らしい幼稚園の子どもたちと

協力：25ans　2015年1月号「チャリティ白書」（ハースト婦人画報社）

Photos/Mayumi Rui（NOIR）

――昨年の9月に、プランが支援する活動の視察に、ベトナム・ハザン省の山岳地帯を訪れました。きっかけは何だったのでしょうか。

森星さん（以下敬称略）雑誌「25ans」（ハースト婦人画報社刊行）でNGO／NPOやファッションブランド、セレブリティなどの社会貢献活動を紹介する「チャリティ白書」という記事があり、その撮影で行きました。取材日数は1日と限られた時間でしたが、モン族の子どもたちと楽しく交流することができました。

――具体的には、どういう活動を視察し、子どもたちとどんな遊びやお話をしましたか？

森　最初に、プランが支援している「女の子クラブ」を視察しました。主に中学生が集まり、「家で虐待を受けたらどうするか」「拉致されないようにどうやって身を守るか」など、地域の女の子が抱える問題を学びます。深刻な内容を、幼いのに冷静に聞いている様子に驚きました。次に、幼稚園へ行って子どもたちと一緒に歌を歌ったり絵本を読んだりしました。教室はとても清潔で、たくさんの文具や絵本、お菓子があるのが印象的でした。すべてプランのサポートによるものだそうです。そして最後に、プラン・スポンサーシップの支援を通してフランス↘人のスポンサーと交流する10歳の女の子、ソウちゃんの自宅を訪れました。将来の夢を聞いたら「学校の勉強は難しいけれど頑張って、先生になり家を建てたい」と答え、とても几帳面な字で、スポンサーに宛てた手紙を黙々と書いていたのが心に残っています。

――幼稚園の子どもたちには、森さんが持参したシャボン玉が大人気だったようですね。

森　そうなんです！自宅にあったシャボン玉を持って行ったのですが、子どもたちには初めての体験だったみたい。子どものときって、〝引っ張る〟とか〝押す〟とかベーシックな動作を遊びを通して勉強しますよね。モン族の幼稚園児たちは、シャボン玉液を〝吹く〟という動作を、私の目の前で学んでくれました。子どもたちがひとつ新しいことを覚えた瞬間に立ち会えたのに、感激してしまいましたね。

――開発途上国を視察したのは、今回が初めてだと伺いました。ご自身の仕事観などに何か影響はありましたか？

森　モデルとして、カメラに向かって笑顔を作ることが多いのですが、改めて笑顔の力を思い知りました。実は、視察に行く前は言葉が通じない子どもたちと上手くコミュニケーションを取れるのか、少し不安だったんです。でも、笑顔で接するようにしたらすっかり打ち解け、ハッピーに過ごすことができました。笑顔って言葉や文化の壁を超える最強の武器だな、と思いましたね。

――今後、途上国支援にどのように関わっていきたいですか？

森　モン族の子どもたちからたくさんの元気やハピネスをもらったので、いつかそれをお返ししたいです。今後も様々な国へ渡り、直接子どもたちと触れ合って、特に途上国の女の子がキラキラ輝いている姿を日本に伝えたいです！

2015年7月、森星さんが「Because I am a Girl エンジェル」に就任！



エンジェルは「メッセージを伝える人」という意味。プランが進めるBecause I am a Girl（BIAAG）キャンペーンや、世界の女の子からのメッセージを日本の皆さまに伝えます。森さんは、「就任をとても光栄でうれしく思っています。これをチャンスに、もっと勉強して貢献できたら幸せです」とコメント。その第一歩が、BIAAGのSNSアクション「#Girl4President」です。「女の子は皆、羽ばたく翼をもっている」という思いを自分の写真にのせて伝えるこのアクションへの、皆さまの参加を呼びかけます。

「#Girl4President」の詳細は、同封のチラシかP14をご参照ください

Profile

もり・ひかり
1992年東京生まれ。モデルとしてファッション誌やバラエティ番組で活躍中。昨年9月にプランの視察でベトナム・ハザン省を訪れたことをきっかけに、開発途上国の問題に興味を持つように。





まきを運ぶ少女（ネパール）

「だって、あの子は女の子だから」母親の言葉がきっかけでした

国際キャンペーンの開始から、「国際ガールズ・デー」の制定やマララ・ユスフザイさんのノーベル賞受賞などを経て、女の子への教育の重要さが世界でも認識されるようになってきました。あらためて、キャンペーンにこめられた想いをひもときます。



ネパールの女の子

プランが Because I am a Girl（ＢＩＡＡＧ）キャンペーンを始めて、８年目を迎えました。この間、キャンペーンの一環として国連に働きかけてきた「国際ガールズ・デー」（10月11日）の制定が実現し、女の子の力で世界を変えていく、というプランの目標は、着実に成果を上げています。一方で、「なぜ女の子だけを支援するの？」という質問をいただくこともあります。

そこで、今回はＢＩＡＡＧキャンペーンのきっかけとなったストーリーとともに、〝女の子だからこそ〟世界の問題を解決する力になる理由をお話しします。

ネパールの女の子の姿と母親の言葉が衝撃を与えた

２００４年、一人のドイツ人ジャーナリストが、プランの活動を現地取材するためネパールのある村を訪ねました。村の問題と解決策を話し合う住民たちを取材していると、薄い服を着て寒そうに震えて立っている女の子が目に留まりました。ジャーナリストは、子どもたちの厳しい現実をもっと深く取材しようと、女の子の家まで案内してもらいました。

家の戸口で女の子の母親と話していると、部屋の奥に、学校の制服を着た男の子が目に入りました。先ほどの女の子の姿との差に愕然としながら、ジャーナリストは母親に尋ねました。「どうして男の子は元気で制服も着ているのに、女の子は暖かい服を与えられずやせ細っているのですか？」

母親の答えは、

「だって、あの子は女の子だから（Because she is a girl）」。※

「だって女の子だから」を「女の子だからこそ」に

この様子にショックを受けたプランのスタッフがリサーチを行い、３年後に立ち上げたのがＢＩＡＡＧキャンペーンです。

ネパールに限らず、「女の子だから、教育をしても仕方がない」という価値観を持つ国は、世界にまだまだたくさんあります。「女の子だから」と機会を奪う世界ではなく、「女の子だからこそ」しっかりと教育し、世界を変える力になっていけたら……。そんな思いをこめて、名づけられたのです。

これまでの活動の成果を通して、プランは、女の子が変わることは、男の子やとりまく地域の意識を変えていくことにもつながると確信しています。

まず女の子から。それが世界の未来を明るくする有効な方策の一つなのです。

女の子が教育を受ければ、世界を変える力になれる

女の子が世界を変える力になる。その考え方は、数々の統計上の数字に裏付けられています。貧しい家庭では、必要のないこととされがちな女の子の教育こそが、貧困問題解決の糸口となるのです。けれども、今日でも、6,200 万人の女の子が小・中学校の教育を終了することができていません。問題の解決は簡単ではありませんが、教育を受け、女の子が自分に関する事柄を自分で決定できる力を身につけることは、弱い立場にある自らを守り、経済的に自立することにつながるのです。

インドで中等教育を受ける女の子が1%増加 → 国内総生産（GDP）は 55億米ドル増加

※「Make it Right:Ending the Crisis in Girls’ Education」
（Global campaign for Education and Results Education Fund,2011）

女の子が１年長く中学校に通う → 将来得る収入は 20% アップ

※「Measuring the Economic Gain of Inversting in Girls」（世界銀行、2011 年）

読み書きのできる母親の子ども → 5 歳以上まで生き延びる確率が 50% アップ

※「Education Counts: Toward the Millennium Development Goals」
（ユネスコ、2011 年）

※これらの数字は、いずれも調査にもとづいた推計です

※上記のネパールのエピソードに登場するお母さんも同様の扱いを受けて成長し、社会規範に従ってこのような思い込みを抱かされています

7月スタート！新 Gril's Projectの詳細

カンボジア
女の子の自立を助ける職業訓練プロジェクト



● プロジェクトの背景と概要

カンボジアは 20 年に及ぶ内戦の影響で、中高年以上が極端に少なく、若者が多いのが特徴です。若者の就労には教育が鍵になりますが、農村地域では中学校の就学率は約 27%、高校の就学率になると 13%まで下がります。また中途退学は、男の子よりも女の子たちに多く見られます。このプロジェクトでは、シェムリアップ州、トボンクムン州 とラタナキリ州の 3 州で、経済的な困窮など困難な状況にあり、学校に通っていない若年層の女性 200 人に職業訓練を実施します。

● 活動の主な内容

各州の公立職業訓練校において、美容（髪とメイクアップ）、裁縫、養鶏、結婚式の花婿と花嫁の着付けや式場の飾り付け、地元料理などの職業訓練を実施します。

コロンビア
子育て・家族計画サポートプロジェクト



● プロジェクトの背景と概要

プランが活動するスクレ県シンセレホ市では、先住民族やアフリカ系コロンビア人、女性の権利が保証されておらず、国全体と比較しても、平均余命や子どもたちの栄養状態などに明らかな格差があります。このプロジェクトでは、低所得者層のアフリカ系コロンビア人、特に乳幼児をもつ 10 代の母親・妊産婦を中心に、正しい育児法の習得や第 2 子以降の家族計画を適切に行い、家族の健康状態を改善することを目指します。

● 活動の主な内容

プランと協働している地域の保健員、地域のリーダーたちが中心となって、18 歳未満の妊娠中の女の子とパートナーが、乳幼児のケアや育児方法、自分自身の性と生殖に関する健康を守るための十分な知識を得るよう支援します。

ジンバブエ
女の子が安心して学ぶ寄宿舎建設プロジェクト



● プロジェクトの背景と概要

ジンバブエは、1980 年の独立後しばらくは最も将来有望な国の一つでした。1990 年代後半からの政治・経済政策の失敗で経済が極度に混乱。教育予算も減り、家事労働の負担がかかる女の子の小学校と中等学校の修了率は 55%に留まっています。このプロジェクトでは、ミッドランズ州クエクエ郡の 2 つのコミュニティで、中等学校（中学校・高校）に寄宿舎を建設し、より多くの女の子が質の高い教育を受けられることを目指します。

● 活動の主な内容

学校の敷地内に女子生徒のための寄宿舎（各校に 1 棟）を建設し、備品としてベッドや机、椅子を支給するほか、寄宿舎管理を担当する「学校開発委員会」を対象に、管理方法などを指導します。

ウガンダ
女性のための生計向上プロジェクト



● プロジェクトの背景と概要

ウガンダは最貧国の一つとされ、サハラ以南のアフリカ諸国で最も若年層の失業が多い国の一つでもあります。特に女性の状況は厳しく、就労や経済力を身につける機会が限られています。このプロジェクトでは、トロロ県とカムリ県の 2 県の若年層の女性 1,000 人を対象に、村落貯蓄貸付グループを立ち上げ、グループを通じて主に養鶏や農業などの技術トレーニングや起業支援などの活動を行います。

● 活動の主な内容

参加者の主体性や意見を尊重しながら、35 の村落貯蓄貸付グループを立ち上げます。またメンバーの女性たちには、就業や起業の可能性が高い業種や必要とされるスキルをトレーニングします。

ご支援をお待ちしております

Girl's Project は、継続／都度どちらでもご支援いただけます。下記の BIAAG キャンペーンサイトからお手続きください。今回だけの寄付をご希望の方は、同封の四つ折パンフレットもご利用いただけます。新しいプロジェクトについては、7月からプラン・ジャパンウェブサイトのトピックスでも、順次紹介します。その後のプロジェクトの進捗についても、適宜ウェブサイトで経過を報告していきます。メールマガジンでご案内しますので、ぜひご登録ください！



http://www.plan-japan.org/girl/

インド
女の子のための教育推進プロジェクト



● プロジェクトの背景と概要

急速な経済発展をとげているインドでは、カーストやジェンダー（社会的性別）に基づく差別が根深く、とりわけ指定部族と呼ばれる、長年差別の対象となってきた先住民族は今も厳しい生活を強いられています。このプロジェクトでは、アンドラ・プラデシュ州とオディシャ州の計 3 県の中学校に通う指定部族の子どもたち（うち 7 割は女子生徒）を対象に、奨学金での学業支援、および女子教育推進のための意識啓発や教師の能力強化などを行い、10 年生（日本の中学 3 年生に相当）の修了資格を得られるように支援します。

● 活動の主な内容

10 年生の生徒（600 人、そのうち女の子 450 人）に対して奨学金を支給。ライフスキルトレーニングやキャリアカウンセリングを実施します。保護者には意識啓発を行います。

女の子に幸せになる力を！5つのGirl's Project、始まります!!



7月から新たにスタートする5つのプロジェクト。それらに参加する女の子たちに、参加の意気込みを語ってもらいました。

ウガンダ
「女性のための生計向上プロジェクト」

ローラさん（仮名・19 歳）

「私のように経済的に困窮している女の子たちがひとりでも多く、手に職をつけられるようにしたいです」



ウガンダでのプロジェクトは、若年層の女の子たちが貯蓄や利子の運用など資金管理の知識を身につけることを目的としています。農業や新たな仕事を始めるためのスキルの習得も支援します。

プロジェクトに参加するローラさんは、ウガンダ東部のケニアとの国境付近の町で暮らしています。強盗に入られて父親が大けがをし、父親が入院中に性暴力の被害者となり、その後、男の子を生みました。

「私は息子、父、妹、父方の祖父母と一緒に暮らしています。家が経済的に苦しかったことと、子どもが生まれたことで、中学校 2 年生で学校を辞めなくてはなりませんでした。いまは子どもを養うために、毎朝 6 時に起き、1 時間かけて町へ出て携帯電話のプリペイドカードを売る店で働いています。毎月の収入はわずかで、子どもと自分の食事代をまかなうのにやっとです。このプロジェクトでは美容院ができるような技術を身につけ、お金を貯めたいと思っています。お金を貯めて学校に戻り、理科や化学を学び、いつか医療の仕事につくという自分の希望を実現させたいです」。

インド
「女の子のための教育推進プロジェクト」

サロジニさん（15 歳）

「早すぎる結婚をすることなく、多くの女の子が教育を受け続けられるようになることを望んでいます」



インドは、2020 年までに 400 万人が「中産階級」になるといわれる一方、33%の人々が 1 日 1.25 米ﾄﾞﾙ未満で暮らすなど、格差が深刻化しています。このプロジェクトは、社会的差別と性差別を二重に受ける指定部族の女の子を対象に、教育を受け、就業機会を広げることが目的です。

プロジェクトに参加するサロジニさんは、昨年父を亡くし、母と兄、姉と一緒に暮らしています。家族が所有している土地はわずかで、生活をするのにぎりぎりです。

「母と兄は日雇い労働に出かけて収入を得ることもありますが、それでも生活が苦しく、私の教育費を出せないかもしれないと悩んでいました。私の地域では、15 歳になると多くの女の子が学校をやめ結婚します。私も同じように結婚して家族の負担を減らさなくてはならないのかと悩みました。そんなとき、学校の先生がこのプロジェクトについて教えてくれました。私は英語と数学と理科が苦手なので、特に不得意な教科を一生懸命勉強し、試験に受かり、教師になるという夢をかなえたいと思っています」。

乳幼児教育の導入と普及を達成！ コミュニティを運営する力をつけ自立へ

皆さまのご支援のもと、プラン・スポンサーシップの活動が地域にどのような効果をもたらしたのかをご報告します。今回取り上げるのは、ベトナム・フートー省。ベトナムの中でも貧困率が高く、衛生的な生活環境も整っておらず、栄養不良の子どもの割合が他省に比べて高い状況でした。プランは関連し合ういくつもの問題に取り組むことで、「子どもたちが元気な地域」を実現させました。

【ベトナム・フートー省はこんなところ】 ハノイの北東80kmに位置する。住民の2/3は農業を営み、人口のおよそ15%を20の少数民族が占めています。プランが活動を開始した1990年代には、住民の貧困の割合が60%近くに達していました。



子どもの栄養不良は大きな問題でした。地域の食材で栄養のある調理を学びます

First Phase 1999-2006



診療所も建設され、妊産婦ケアや予防接種も普及しました

まずは生活環境を整えることからスタート

第一段階での優先事項は、幼い子どもの命と健康を守るための基本的な環境を整えること。そのため、不衛生な生活習慣や住居の改善、安全な母子ケアの推進などを行いました。これらの支援をする際には、当事者である地域の人々をはじめ、保健員や関係者たちの理解を得ることが大切です。よい関係を築くことを重視しながら支援をしました。また、これらを継続的に進めるには、親たちが経済的に安定している必要があるため、生計向上もあわせて支援しました。





（上）病害虫に関する知識を得て、収穫高が上がりました。食料の確保ができ、子どもたちの栄養にも有効です （下）教育省と協力し、指導法や学習法など教育プログラムの質を高めました

Second Phase 2007-2012

子どもの権利に焦点をあて活動の質を高める

子どもを中心とした保健サービスや乳幼児教育、質の高い基礎教育、持続可能な生計手段、子どもの保護などについて、地域の人々の能力開発を推進。さらに、自治体との交渉力をつけ、自ら問題を見出し、解決へ向けて進める力を養いました。2008年に、プランが活動をしていた2県を台風カムリが直撃。食料や水と薬に加え、約2,200人の子どもたちへ学用品の支援をしました。これを機に、地域の人々の危機管理意識が高まり、災害リスク軽減および気候変動対策が強化され、災害に強い地域に成長しました。



親たちも幼児教育の重要性を認識するようになり、遊具のそろった幼児教育施設も作られました。今ではほとんどの親が子どもを幼稚園に通わせています





（左）子どもグループが自分たちを取り巻く問題を話し合っています
（右）子どもの保護について、大人の意識を高めるイベントを開催しました

Third Phase 2012-2017

コミュニティをよりよくする力をつけ、卒業

地域で早くにプランの支援から卒業したコミュニティは、その後も村人たちによる適切な運営により、支援成果が継続しています。プランは、2017年までにフートー省からの完全撤退を進め、今後は山間部のハザン省とライチャウ省へ活動の場を移す予定。活動の中心は、少数民族地域における乳幼児保育、子どもの保護、子どもを中心とした災害リスク軽減と気候変動への対応など、発展から取り残された貧しい女性や子ども、少数民族の人たちへの支援プロジェクトとなります。

現地の人の生の声をお届け！ VOICES

グエンさん
● 7年生（日本の中学1年生相当）



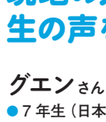
私はプランがサポートする子どもクラブのメンバーで、子どもの権利や虐待を受けた場合の対処法などを教える係をしています。そのような責任のある仕事を与えられ、大切な友だちや地域の人々に貢献できるのがとてもうれしいです！

グエン・ヴァン・ドォックさん
● コミュニティの住人



プランが長期間にわたって支援を続けることにとても感謝しています。プランから米やとうもろこしなど農作物の種、肥料、そして畜産と農作業の技術指導を受け、暮らしが良くなりました。また、子どもたちは新しい学校で勉強をすることができ、妻はプランが主催する料理選手権の参加を大変楽しんでいます。プランは私と家族、そして村の生活を大きく変えたと思います。

プーン・カン・ラムさん
● 子どもの保護推進員



私たちの村は、プランから色々な支援を受けました。昔は家庭内で子どもが虐待を受けることがあっても、皆トラブルを避け、あまり干渉したがりませんでした。でも今は、プランの働きかけもあって、多くの人々が子どもの保護と権利に注意を払うようになったのです。大人の意識が大きく変わり、私たちの村の子どもたちは、以前よりずっと安全な環境で暮らしています。

数字で見る活動の成果
1999年→2014年でこんなに変わりました！

- 乳幼児教育施設 0 → 90 学級
- 3〜5歳の入園率 54%→ 98%
- 年収 $179 →$1,076
- 5歳以下の低体重児の割合 33%→ 15%

※フートー省プラン活動地域のデータ。

※これは世界各地で行われているプラン・スポンサーシップの一例です。

エジプトの事例に見る「ストリート・チルドレン」支援の最前線

プラン・マンスリー・サポーター支援で取り組む「ストリート・チルドレン」の現状を、
エジプトでの活動成果とともに内山職員が解説します。

リポーター：内山雄太（プログラム部）



ゴミをあさるストリート・チルドレン（バングラデシュ）

ストリート・チルドレンとは

路上で寝泊まりするだけではなく、働いたり、物乞いをするなど路上活動をしている子どもたち全体を指します。世界のストリート・チルドレンの数は、3千万～1億7千万人とも言われていますが、正確な数字の把握は難しく、統計も存在しません。その背景は様々で、お金を稼ぐためや、育児放棄や親に捨てられるケース、暴力や虐待を受けて自ら家を飛び出すケースもあります。

路上で待ち受ける危険

路上で事故に遭ったり、人身売買や児童労働、児童買春、エイズなど性行為感染症の罹患など、様々な問題に巻き込まれていきます。また、シンナーや麻薬に手を出したりギャング団に引き込まれるなど、犯罪にも巻き込まれます。警察はこのような子どもたちを保護の対象とは見なさず、ストリートの浄化と称して暴行・拘留し、抹殺するケースもあります。

プランの取り組み

プランは、2009年よりエジプト、アレキサンドリアでストリート・チルドレンの保護と社会復帰支援を行っています。まず、医師、看護師、ソーシャルワーカー、心理学専門家などから構成されるチームが子どもたちに接触してカウンセリングを行い、医療サービスや温かい食事を提供します。保護に同意した子どもたちは、シェルターに送られ、共同生活を始めます。シェルターでは、心のケア、教育、能力開発、職業訓練など様々な支援を受けます。

また、子どもたちが元の家族に復帰できるよう、ソーシャルワーカーが家族に接触し、子どもへの配慮や権利、家族の絆の大切さなどについて、慎重に、時間をかけて説明します。子どもたちの40～50％は円満に家庭に復帰しています。

4年目からは、ストリート・チルドレンを生まないための〝予防〟対策と、子どもの保護と社会復帰を支援する〝治療〟の両面からアプローチ。今ではエジプト最大のプロジェクトとして、国連機関や他のNGOのモデルになっています。

VOICES



「これまで様々な団体で数多くの啓発セッションを指揮してきましたが、プランの啓発セッションのプログラムは卓越しています」（サブリさん / ソーシャルワーカー）



「家族を作り上げていくことは難しいけれど、“私ならできる”という自信が湧きました。同じような境遇にある女性たちにも、ぜひプランの啓発セッションに参加してほしい」（マルワさん /16 歳の元ストリート・マザー）



「職業訓練はとても興味深く、製作したものも売れて貯金もできました。将来は優秀なビジネスマンになりたいです」（モハメッドさん /14 歳の男の子）



「治安の悪化で活動が停滞した時期もありましたが、多くの関係者の努力で本当にすばらしいプロジェクトになりました。エジプトに数多くのストリート・チルドレンプロジェクトがある中、政府によってモデルに選ばれたことは誇らしい限りです」（バハーさん / シェルターの責任者）

●このプロジェクトは、プラン・マンスリー・サポーターを通じてご支援いただけます。詳しくはウェブサイトをご覧ください。
http://www.plan-japan.org/join/monthly/

ラオス「水の確保と衛生改善プロジェクト」スタート

山間部に、安全な水と衛生設備を提供します

スタートしたばかりのラオスのプロジェクト。現地に勤務する米田副所長から現状報告と活動の方針をお伝えします。

リポーター：米田祐子（プラン・ラオス国統括事務所副所長）

今年2月よりプラン・ラオス国統括事務所の副所長として勤務しています。2015年7月から始まる、プラン・ジャパンの支援する新しいプロジェクトの進捗管理も行います。

ラオスは、2014年の人間開発指標で189カ国中139位にランキングされた、人口約660万人の小さな内陸国です。言語も文化も多様な49の民族から成ることと、険しい地形に阻まれて、教育、保健、水や衛生といった基本的な公共のサービスを末端まで届けるには非常に困難を伴います。2月に初めて地方を視察した際、湾曲の激しいでこぼこの山道を登り下りしながら、緑の山の頂上に小さな村が点在している様子を見て、森林の大海の中の孤島のようだと感じました。



関係者とのミーティングの様子

設備の提供だけでなく主体的な衛生管理をめざす

陸の孤島のようなラオスの農村では、安全な水の供給及びトイレなどの衛生設備はまだ普及していません。保健施設のない村では、水や衛生の管理が、子どもの健全な発育を守る上で特に大切です。下痢、マラリア、デング熱といった病気で死にいたることも珍しくなく、また、不衛生な環境が引き起こす症状が、44％に上る子どもの恒常的な栄養不良の一因となっています。栄養不良は、身体の成長だけでなく、脳の発達にも悪影響を及ぼします。

多くの援助機関が、一方的にトイレを設置したり石鹸を与えたりするなか、プラン・ラオスでは、いかに水や衛生管理が自分たち、また子どもたちにとって大切かという認識を持ってもらうことに力を入れています。村人たちに、主体性を持ち責任を持って、改善策を進めていってほしいからです。

皆さまのご支援に感謝いたしますと同時に、これからもよろしくお願いします。



よねだ・ゆうこ
アジア、アフリカ各国で、モニタリング、評価、途上国の市民団体やNGOの強化及び連携、開発援助の質の向上等をテーマに、主にNGOで活動。ラオス赴任以前は、別のNGOのリベリア事務所で活動し、最後の数カ月はエボラ対策にも携わる。

●7月から新しく始まるプラン一般プロジェクトについては、同封チラシもしくはウェブサイトをご覧ください。http://www.plan-japan.org/join/priority/

二度の大地震に見舞われたネパールを緊急支援

子どもの心のケアを進めています

甚大な被害をもたらしたネパール大地震。
プランは緊急支援物資の供給をするとともに、
子どもの保護に重点を置いて支援活動を続けています。

リポーター：後藤 亮（コミュニケーション部）

プランは、4月25日に発生したネパール大地震で、発生後の1カ月間に、大きな被害をうけた中部地域を中心に13の郡で支援活動を実施。仮設テント3万2300セット、食料1万3200セット、浄水剤4万個以上などの支援物資を配布しました。さらに、災害による心理的衝撃をやわらげるための「子どもにやさしいスペース」の設置、心のケア、教育、仮設テントで暮らす女の子を含む子どもの保護などの支援を展開しています。

子どもにやさしいスペースは、子どもたちが日常生活を取り戻し、被災体験を乗り越えるうえで重要な役割を果たします。研修を受けたボランティアが運営を担い、ゲームや歌、ダンスやアートなど様々なレクリエーション活動を用意しています。子どもたちが安全で心から安心できるスペースで遊べることは、大地震で受けた強い衝撃からいやされる第一歩です。被災地域でさらに100カ所の開設を目指して、調整を行っています。

また、プランは政府や他の関係機関と協力して、学校に通うことのできない子どもたちのために、仮設の学習スペースを設置する計画を進めています。



子どもにやさしいスペースで、音楽を使った遊びに参加する子どもたち

●今後も情報をウェブサイトに順次更新していきます。
http://www.plan-japan.org/

職場で説明会・映画上映会を開いて、支援の輪を広めよう！

第一回でご紹介するのは、職場等で開催するプランの支援説明会と映画上映会。
あなたも同僚の方たちに、プランの活動を広めてみませんか？

プラン・ジャパンでは、ご自分の職場でプランの支援説明会や映画の上映会を開催し、ファンドレイジング（資金調達）活動をしてくださる方を募集しています。

同じ会社の仲間が実際に参加している支援について話をすると、それを聞く方々にも身近に感じてもらいやすく、支援の輪を広げるのにとても効果的です。また、社員の方々が自主的に社会貢献について学ぶ場としても活用していただけます。パンフレットやポスターといった広報ツールの提供や、映画のDVDの貸出は無料です。プランの職員が会場にうかがうことも可能ですので、ぜひ左記までご相談ください。

●お問い合わせ先：ファンドレイジング部　TEL：03-5481-7100
／Mail: hello@plan-japan.org

社会貢献委員会の仲間と一緒に映画上映会を開きました！



山本愛さん（左）、兼澤知加さん（右）／ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会メンバー

有志社員で構成されているジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会。山本さんと兼澤さんはそこでの一企画として、お昼休みに委員会が用意したカレーを食べながら、映画を鑑賞するという会を開催しました。山本さんのご挨拶に続き、プラン職員が映画やプラン・ジャパンの活動などについて解説。当日の参加費500円の一部と、会場に設置した募金箱からご寄付いただきました。

体験者からひとこと



多くの社員の方が熱心に参加してくださいました

私たちはBIAAGプロジェクトのことを知り、映画『Girl Rising』を見てみたいと思いました。そして、折角ならひとりでも多くの人と一緒に見て思いを共有したいと考え、社内上映会を企画しました。

お昼休みを利用した1エピソードのみの上映だったのですが、多くの同僚が興味をもち、参加してくれました。男性社員もたくさん集まってくださり、とても手ごたえを感じました。今後、社内上映会の企画を検討されている方には、「まずは社内で声を上げてみてください。共感してくれる方は思いのほか一杯いますよ」とお伝えしたいです。私たちも、同じ思いをもつ方と社内で繋がることができて、とてもよい経験になりました。

支社の定例会で説明会を開きました！



プラン・スポンサーシップ支援者
近藤克美さん／外資系金融機関勤務

近藤さんが所属している支社では、定例会を持ち回りで担当し、テーマも担当者が自由に設定して発表できるようになっています。そこで近藤さんは、その定例会の時間を活用してプラン・ジャパンの支援説明会を開催。プラン職員による説明を、支社の営業担当者全員に聞いていただくことができました。当日はプラン・ジャパンのパンフレットも配布していただきました。

体験者からひとこと



Because I am a Girl（BIAAG）のパンフも配布していただきました

以前よりプラン・ジャパンのスポンサーだった私は、まわりの人たちにもプランの活動を伝えていくことがより大きな支援につながると考え、社内説明会を企画しました。今回の説明会で8人ほどスポンサーが増えたので、やってよかったと思っています。また、今回はスポンサーにならなかった人たちからも、「勉強になった」という感想をもらえたので、一定のアナウンス効果はあったのではないかと考えています。

寄付などを通じて自分で支援を行うこともちろん大切ですが、より多くの人にプランの活動を伝えることができれば、結果的により多くの支援を生み出すことになると思うので、積極的に取り組むことが重要だと思います。

現地報告　インド・ラジャスタン州

村の女性たちの生き方に触れ、ともに働く醍醐味を感じています！

渋谷朋子職員



女性たちからたくさん話を聞いています

From India

インドからナマステ！　今年2月、インド北西部のラジャスタン州に着任しました。ここは一つの州でありながら、日本と同等の面積をもち、砂漠の観光地として知られる一方で、乳幼児の栄養不良がいまだ深刻な状況にあります。州都ジャイプールを拠点に、日本の外務省の資金協力を得ながら、75村の5歳以下の子どもの栄養不良改善を目指して、総勢20名のインド人スタッフとともに働いています。

現在、本プロジェクトで取り組んでいることの一つが、乳幼児の保健栄養に関する教材の作成と、それを活用できる人材の育成です。私はその教材の具体的な内容を協議して計画書を作成したり、コンサルタントの雇用や各関係機関との連絡調整などを行ったりしています。教材には妊娠期や乳幼児の年齢に応じた食事とケアだけでなく、どのようにして栄養状態を村人自身で判断するかなどを盛り込みます。この州の女性の識字率は46・6％。農村部ではこの値をさらに下回ります。そのような環境の中で、教材を使いやすく理解しやすいものにできるよう、プロジェクトスタッフ一同、心がけています。

出張報告　ハイチ南東県・西県

ハイチ出張で地域住民たちととことん話し合いました！

馬野裕朗職員



現地スタッフとの打ち合わせも重要です

From Haiti

プランは、2013年11月から外務省の資金協力を得て、地域住民や学校に通う子どもたちに安全な水飲み場と清潔なトイレを設置し、衛生的な生活環境作りの支援をしています。今回の出張の目的の一つは、次年の支援対象校を選定すること。すべての候補校を訪問し、現地の支援チームと様々な視点から議論を尽くして対象6校を決めました。そのうち3校は、現在村が使用している水源から水を分けてもらうのに、既存の施設の改良工事をしなければならず、候補地の住民の合意を得る必要がありました。そこで急遽、対象校のある村の代表の方と連絡を取り、集会を設けました。村からは、貴重な水が分水することで枯渇しないのか、といった心配の声も出たので、水量が豊富なこと、学校への給水施設設置に併せて太陽光を利用した動力ポンプを村の施設にも設置することなどを説明しました。当日は3つの村を訪れ、集会はそれぞれ数時間に及びましたが、相互の気持ちを率直に伝え合うことで、すべての村で合意を得ることができました。私たちは、その期待にしっかり沿えるよう責任を果たしていきたいと思っています。



7月10日（金）に受付開始です！
チャイルドからも大好評の「カレンダー付きグリーティングカード」。
2016年のキャンペーンは、7月10日（金）にスタートします。
詳しくは、同封のチラシをご覧ください。
皆さまからのお申し込みをお待ちしています！

「体験ゲームで知ろう！ 世界の子どもたちの今！」開催

開発教育ボランティア「プラン・フレンズ」のオリジナル教材を使って、途上国の女の子の現状やプランの取り組みについて学ぶイベントを開催します。進行役もプラン・フレンズが務めます。体験型で楽しみながら、開発現場で今まさに課題となっていることを知り、自分たちに何ができるかを考えてみませんか？
【日時】 2015 年 8 月 22 日（土）
13 時 30 分～ 16 時
【会場】 キャロットタワー 4 F 生活工房ワークショップルーム A（東急田園都市線三軒茶屋駅より徒歩 3 分）
【主な対象】
小学 4 年生～中学 3 年生
【定員】 30 人（先着順・参加費無料）
【お問い合わせ・お申し込み先】
開発教育担当 TEL：03-5481-0030
Mail: education@plan-japan.org
※参加ご希望の方は、メールか電話で事前にお申し込みください。その際、名前、住所、電話番号、SP 番号、参加人数、参加する子どもの学年をお知らせください


昨年開催されたイベントの様子

あなたも参加しませんか？ プラン支援者の会からイベント開催のお知らせ

山形・秋田プランの会

第 22 回山形・秋田プランの会
- 日時：7 月 12 日（日） 13 時～ 16 時 30 分
- 会場：山形県生涯学習センター遊学館 第 2 研修室（山形市緑町 1-2-36）
- 内容：プラン・ジャパン佐藤事務局長による活動報告、チャイルドへの手紙書き、参加者同士の交流
- 参加費：500 円 ※7 月 6 日（月）までに下記の連絡・申込先へお申し込みください

第 23 回山形・秋田プランの会
- 日時：11 月 8 日（日） 13 時～ 16 時 30 分
- 会場：サンパル秋田（予定）（秋田市山王 7-3-1 秋田文化会館内）
- 内容：プラン・ジャパン職員による活動報告、チャイルドへの手紙書き、参加者同士の交流
- 参加費：500 円 ※ 11 月 2 日（月）までに下記へお申し込みください
- 連絡・申込先：岩谷

Mail：tadaya-i@chive.ocn.ne.jp

プラン名古屋の会 W

チャイルド訪問報告会とお手紙書きの会
- 日時：7 月 12 日（日） 14 時 20 分～ 17 時（受付は 14 時～）
- 会場：JICA 中部 なごや地球ひろば セミナールーム B（名古屋市中村区平池町 4 丁目 60-7）
- 内容：インドネシアでチャイルド訪問をされた方から体験談を聞きます。チャイルドへのお手紙書きも開催。プランの活動及びチャイルドを支援していない方も参加できます。また、終了後は希望者で食事会を行います
- 参加費：500 円 ※事前申込が必要です

三河での交流会
- 日時：7 月 25 日（土） 16 時 30 分集合（20 時 30 分頃終了予定）
- 会場：ビストロ・バンケ（集合は豊川稲荷駅前）
- 内容：豊川稲荷参拝後、ビュッフェ形式の会食と石巻視察報告を行う予定
- 参加費：4,000 円＋α（食事代＋飲みもの代） ※事前申込が必要です
- 連絡・申込先：中村

Mail：hiromunakamura@yahoo.co.jp

木工教室
- 日時：8 月 2 日（日） 14 時～
- 会場：岩塚材木（名古屋市中村区岩塚町 5-45）
- 内容：木製プランター等の小物品を作ります。終了後（17 時 30 分～）、木製デッキガーデンで希望者による食事会を予定
- 定員：10 名程度
- 参加費：500 円 ※事前申込が必要です

ベトナムの幼稚園建設を終えての報告
- 日時：8 月 30 日（日） 14 時～ 17 時
- 会場：未定
- 内容：プラン岐阜の会代表、伊藤国男さんによる発表。終了後は食事会を予定
- 参加費：500 円 ※事前申込が必要です

『ワールド・コラボ・フェスタ 2015』出展（予定）
- 日時：10 月 24 日（土） ～ 25 日（日） 10 時～ 18 時（予定）
- 会場：名古屋栄オアシス（予定）
- 内容：プラン・ジャパンの紹介や資料配付をします。両日とも、終了後に有志で懇親会（夕食会）を行う予定

※資料配布等のお手伝いをしてくださる方を募集中。メールでご連絡ください
※三河での交流会以外のイベントについては、下記へご連絡・お申し込みください
- 連絡・申込先：プラン名古屋の会

Mail: info@plan-nagoya.sakura.ne.jp

プラン広島の会 f

お手紙書き会
- 日時：7 月 18 日（土）、8 月 22 日（土）、9 月 26 日（土）、10 月 17 日（土） 14 時～ 16 時
- 会場：広島市まちづくり市民交流プラザ 3F または 2F フリースペース（広島市中区袋町 6-36）
- 内容：チャイルドへの手紙書き
- 参加費：無料 ※事前申込は不要です
- 連絡先：小村

Mail：naokomura@kej.biglobe.ne.jp

プラン千葉の会 W

秋の例会
- 日時：10 月 18 日（日） 13 時 15 分～ 16 時 30 分
- 会場：千葉市文化センター（千葉市中央区中央 2-5-1）
- 内容：お手紙書き会およびプラン・ジャパン職員の話
- 参加費：500 円（会員は無料） ※ 10 月 15 日（木）までに下記へお申し込みください
- 連絡・申込先：前田

Mail：e_maeda@yellow.plala.or.jp

W ウェブサイト f フェイスブック
上記アイコンのある会についてはプラン・ジャパンウェブサイトから各会のページにリンク
トップページ→プラン支援者の方へ→プラン支援者の会 www.plan-japan.org/supporter/plankai/

※ウェブサイトにはイベントの開催報告も掲載しています。ぜひご覧ください ※「プラン・ニュース」No. 100 は、2015 年 11 月下旬にお届け予定です

「国際ガールズ・デー」に向けたSNSアクション 「#Girl4President ～羽ばたけ！ 世界の女の子～」スタート！

プランでは 7 月から、より多くの人たちに世界の女の子が直面する困難と彼女たちの可能性を知ってもらい、応援者になってもらうための SNS アクション、「#Girl4President ～羽ばたけ！ 世界の女の子～」をスタートします。あなたも翼に関連した写真にハッシュタグ #Girl4President #JP をつけ、SNS でシェアすることで、このアクションに参加しませんか？ 10 月 11 日（日）の「国際ガールズ・デー」までに、世界でハッシュタグ数 100 万を目指します！ 女の子にも学びや発言するチャンスがあれば、学校や地域のリーダーになれる、あるいは社長や大統領にだってなれる可能性を秘めています。より多くの女の子が羽ばたける未来のため、多くの方のご参加をお待ちしています。男性のご参加も大歓迎です！（内容等は変更する可能性があります）
【期間】 2015 年 7 月～ 10 月 11 日
※詳細はウェブサイトをご覧ください。
http://www.plan-japan.org/girl/



ハッシュタグ #Girl4President #JP をつけて写真をシェアしよう！

「夏休み読書感想文コンクール2015 ～この一冊から、広がる世界。」作品募集

プラン・ジャパンでは今年も、夏休み読書感想文コンクールを開催します。今年の課題図書は、Because I am a Girl（BIAAG）キャンペーンに関連した本です。応募してくださった方の中から、中学生・高校生各 3 名を「最優秀賞」「優秀賞」「特別賞」として表彰します。賞品は BIAAG に関連する書籍やグッズです。また、今年は「学校賞」も新設しました。入賞者は、第 4 回国際ガールズ・デー（2015 年 10 月 11 日）に発表し、角田審査員長の講評とともに表彰します。途上国の女の子の課題とパワーを知り、自分に何ができるかを考えるこの企画に、多くの中高生のご参加をお待ちしています！ ご家族、知人、学校の先生などにもぜひお知らせください。
【募集期間】 2015 年 6 月 19 日（金）～ 9 月 4 日（金）必着
【内容】 プラン・ジャパンが選定した課題図書（ウェブサイト参照）の中から 1 冊を選び、1,200 字以内で感想文を執筆してください。課題図書は、『マララ 教育のために立ち上がり、世界を変えた少女』（岩崎書店）、『わたしは 13 歳、学校に行けずに花嫁になる。未来をうばわれる 2 億人の女の子たち』（合同出版）などです
【審査員長】 角田光代氏（直木賞作家、プラン・ジャパン支援者）
【応募方法】 ウェブサイトより応募用紙をダウンロードし、必要事項を記入のうえ、作品と一緒に下記まで郵送してください
【お問い合わせ・送付先】
〒 154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋 2-11-22-11F
（公財）プラン・ジャパン コミュニケーション部「夏休み読書感想文コンクール 2015」係 TEL：03-5481-0030
Mail:education@plan-japan.org
※詳細はウェブサイトをご覧ください
www.plan-japan.org


日本の中高生の声を発信しよう！

プランへの寄付となる商品のご紹介

「Anisha（アニーシャ）」のチャリティーブレスレット

「Anisha（アニーシャ）」は、世界各地の伝統的モチーフや技法を大切にした洋服や小物作りに取り組む、株式会社アミナコレクションの女性向けファッションブランド。BIAAG キャンペーンに賛同し、2014 年 10 月 11 日の国際ガールズ・デーから、商品の全額が寄付となるチャリティーブレスレットの販売を行っています。売上げは同ブランドの商品の主な生産地であるインド、ラクノウ地方での女子教育プロジェクトへの寄付になります。支援概要はウェブサイトをご覧ください。
http://www.plan-japan.org/girl/partnership/


ブレスレットで女の子を支援

コミュニティ訪問に
行ってきました！

セネガル共和国 **SENEGAL**

チャイルドって本当にいるの？確かめたくて、訪問してきました！

2013 年 10 月に交流がスタートしたチャイルドに会うため、
西アフリカのセネガルを訪れた趙秉浩さん。
国内をのんびり旅した後、最後にチャイルドの住む
コミュニティへと向かいました！



スポンサー：趙秉浩さん／神奈川県
チャイルド：マイムーナちゃん（女の子／訪問時 3 歳）

私は以前、他の団体で途上国の子ども支援をしていましたが、2013 年にプラン・ジャパンに「移籍」。その最大の理由は、手紙のやり取りやコミュニティ訪問など、支援先の子どもの顔が見える交流ができることでした。以前から「チャイルドが本当にいるのか、自分の目で確かめたい」と考えていた私は、今年の 2 ～ 3 月、休暇を兼ねて全 18 日間の日程を組み、チャイルドのマイムーナが住むセネガルへと出発しました。

現地ではまず首都ダカールとゴレ島に滞在し、観光したり趣味である写真をたくさん撮ったりしてのんびり過ごしました。その後、プランの地域事務所があるサンルイに移動して、いよいよコミュニティ訪問の日を迎えました。

マイムーナが暮らす村では、家族や村の人などが大勢集まって歓迎してくれました。実は、この村を訪れたスポンサーは私が初めてだったのだとか。プランの支援で建設された学校を見学したり、女性たちによる貯蓄貸付組合の説明を受けたりした後、マイムーナの家で 1 時間ほど一緒に過ごすことになりました。

マイムーナは当時まだ 3 歳で、現地のウォロフ語しか分からないということもあり、お互いに話すこともほとんどありませんでした。それでも慣れてくると私の膝の上に乗ってきたりして、本当にかわいらしい女の子でした。ゴレ島で買ったブレスレットと、日本から持参した折り紙をお土産として渡し、あらかじめ作っておいた折り紙の鶴、兜、手裏剣などを見せているうちに 1 時間が経過。プラン事務所に戻って昼食をとり、訪問報告書に記入して全日程が終了となりました。

今回の旅の収穫は、マイムーナとの交流がきっかけで興味をもったセネガル現地の雰囲気が味わえたこと、そして何より、マイムーナに本当に会えたことでした。今は彼女がもっと大きくなって、手紙のやり取りができるようになるのを楽しみにしています。そして将来またコミュニティ訪問をして、今度は彼女と直接会話が楽しめるといいなと思っています。



マイムーナの家族や近所の人たちと記念撮影

旅のスケジュール

2014 年	12 月	プラン・ジャパンに訪問申込
2015 年	1 月	「コミュニティ訪問確認書」受取
	2/18 ～ 2/19	成田空港～イスタンブール（トルコ）～ダカール ※移動時間：約 31 時間
	2/20 ～ 3/3	ダカール、ゴレ島、サンルイ観光
	3/4	コミュニティ訪問 9:30　ホテルのロビーで待ち合わせ～プランの事務所でブリーフィング 11:00　チャイルドが暮らすコミュニティに到着 14:30　プランの事務所に戻り昼食 16:00　ホテルに帰着
	3/5 ～ 3/7	サンルイ～ダカール～イスタンブール～成田空港 ※移動時間：約 26 時間

● コミュニティ訪問は、出発日の 8 週間前までにお申し込みください。
手続き方法などの詳細は、ウェブサイトでご覧いただけます→ http://www.plan-japan.org/supporter/visit/

Plan news
2015 Summer No.99

公益財団法人プラン・ジャパン　www.plan-japan.org
〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋2-11-22 サンタワーズセンタービル10F
TEL 03-5481-6100　FAX 03-5481-6200　service@plan-japan.org

Plan プラン・ジャパン

表紙写真：ベトナムの女の子